平成１８年度大阪府養護教育研究会総会・講演会

５月１１日（木)、アウィーナ大阪において、平成１８年度府養研総会が行われました。大阪府教育委員会からは沢村課長の祝辞がいただけました。議長は東大阪市立太平寺小学校の林校長が選出されました。１７年度事業報告、収支決算報告、会計監査報告の後、旧役員退任、新役員就任の挨拶があり、１８年度事業計画、予算案と議事は滞りなく承認されました。新会長は藤井寺市立第三中学校の河田安男校長です。

議事終了後は**愛知淑徳大学の谷口明広教授の講演**が行われました。教授は四肢及び体幹機能障害により、車椅子を使用されておられます。堺養護学校出身で、その後桃山学院大学を経て、同志社大学大学院で社会福祉学を専攻され、アメリカへ留学し、そして、現在大学教授として、また多数の団体の主力として、障害者の自立に関する素晴らしい研究活動を進められておられます。教授の講演は、まるで漫談家のようなユーモアある話しぶりで、視点が新鮮で内容もわかりやすく、会場の全員が話にぐいぐい魅せられていきました。障害から無理をして逃れようとするのではなく、それが自分にとってごく普通であることとし、より生きやすく、過去よりも今がより楽しく感じられる谷口教授の生き方には共感できました。また、谷口教授が子ども時代から学校の教師、親、福祉などに対し、どのようなことを感じ、どのようなことを望みながらそういった生き方を得られてきたか、大変よくわかりました。現在、われわれが目の前にしている子どもたちと重なるところがあり、興味深い話です。

教授が今言いたいことを大勢の前で言え、十分な反響を肌で感じ、私生活では普通に結婚もして子どもも居る、そして障害のない人よりむしろ生き生きと生活しておられるということは、世の中の障害がある人たちのモデルとしてとても意味があります。また、われわれ教師がつい学習成果、訓練成果を重視しがちで、子どもに過重な期待をかけて疲弊させてしまいがちなこと、または学校では子どもが幸せを感じていても、卒業後にさらに日々生きがいを持てるような自立できる教育ができているのだろうかという指摘は、非常に重要なことであると思いました。当の子どもたちの立場や気持ちを考えて一緒に選択しながら、自立の道をつけていかなければいけないですね。（文責　本部書記　藤岡）

障害を受容するということは自分を好きになると言うことです。自分を好きじゃない子多いです。

個性と障害の違いはですね、
個性は嫌われてもいいですが、
障害は嫌われては困るという点です。